大分県文化財調査報告書　第159輯

国道197号特殊改良第一種工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

寺　畑　遺　跡

2003

大分県教育委員会

序　文

本書は、国道１９７号特殊改良工事に伴って実施した寺畑遺跡の報告書です。遺跡の所在する佐賀関は古代、「海部郡佐加郷」に属しており豊かな自然と遺跡に恵まれています。

今回報告する寺畑遺跡は、海部郡内でも国指定史跡築山古墳をはじめ多数の古墳や遺物散布地が集中する神崎地区にあり、柱穴跡や土器等の遺物が出土しています。

本書が文化財に対する認識と理解を深めていく上で広く活用され、学術研究の分野で役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から資料整理にいたるまで、ご理解とご協力をいただいた関係各位の皆様に心から感謝申し上げます。

平成15年3月31日

大分県教育委員会
教育長　石　川　公　一

例　言

1　本書は平成１３年度に実施した、国道１９７号特殊改良工事に伴う 寺畑遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は臼杵土木事務所の依頼により、大分県教育委員会が実施した。

3　本書に掲載した遺構の実測・製図・写真撮影等は主として担当の高橋般が行った。

4　本書の執筆、編集は高橋が行った。

目　次

Ⅰ　はじめに
　1　調査にいたる経緯 …… 3
　2　調査の組織 …… 3

Ⅱ　歴史的環境 …… 3

Ⅲ　発掘調査の概要 …… 6

Ⅳ　まとめ …… 8

Ⅰ　はじめに

1　調査にいたる経緯

高知県高知市を起点にし大分市を終点にする一般国道１９７号は、佐賀関町ー大分市を結ぶ主要幹線道路である。佐賀関半島の北岸を東西に走るが、神崎付近では住宅地の中を通り、道幅も狭小である。大分県臼杵土木事務所は、これを改良するため５９０ｍの区間を新たに建設することになり、該当地区の文化財分布・試掘調査の依頼を県文化課に行った。これを受けて、県文化課は平成１３年７月４日に試掘調査を実施し、柱穴状遺構と極少量の土器片を確認した２００㎡について、本調査が必要であると判断し臼杵土木事務所と協議の上、平成１３年１１月２日～平成１３年１１月２０日までの期間で調査を行った。

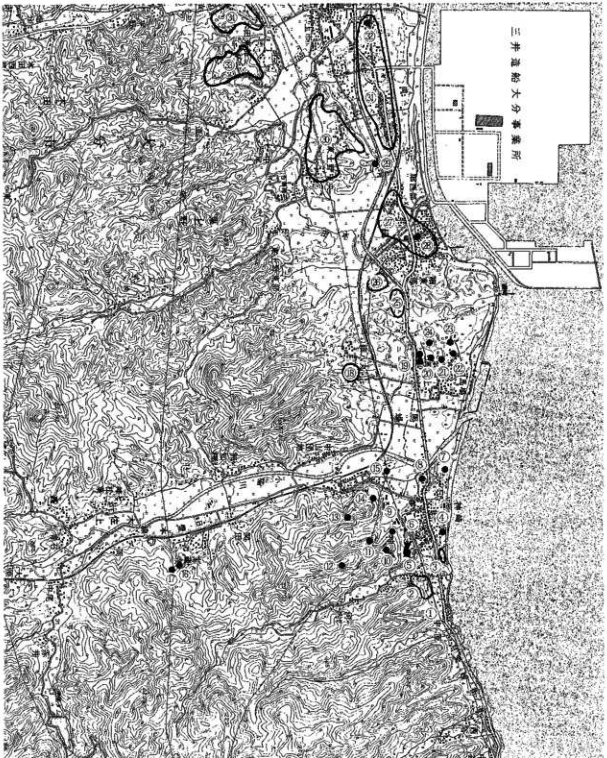
2　調査の組織

調査主体　大分県教育委員会
　　石川公一　（教育長）
　　工藤正徳　（文化課長）

調査員　　高橋徹（文化課　埋蔵文化財調査一般　主幹）
　　東保春奈　（文化課埋蔵文化財　嘱託）
　　五十川雄也（同　　嘱託）

Ⅱ　歴史的環境

別府湾を北に望み、西から東へ突出する佐賀関半島一帯は、古代において海部郡に所属していた。「豊後国風土記」逸文に「此郡百姓並 海辺白水朗也。因日海部郡」とあり、住人は魚介類などの漁労・採取や海上交易あるいは水軍的活動に従事していたと想定されている。「和名抄」や「風土記」によれば、この海部郡は丹生郷、佐井郷、佐加郷、穂門郷の４郷からなり、寺畑遺跡のある神崎地区は佐加郷に比定されている。この辺りには比較的遺跡が集中する。寺畑遺跡およびその周辺では、縄文後期の土器片が採集されており、将来的には立地条件からみて貝塚等の発見も期待されよう。神崎の海岸から西の、大在坂ノ市にかけては比較的海岸平野や砂丘が発達しており、浜遺跡や久原遺跡等で弥生時代の墓地や青銅器（細形銅戈、中細形銅剣）の出土が知られている。



① 中ノ原古墳（古墳）	⑩ 猪ノ谷古墳2号墳（古墳）	⑲ 馬場古墳（古墳）	㉘ 銅戈出土地（弥生）
② 湊遺跡（弥生・包蔵地）	⑪ 猪ノ谷古墳1号墳（古墳）	⑳ 小野古墳（古墳）	㉙ 飛山横穴（古墳）
③ 鵜畑遺跡（縄文・弥生）	⑫ 元金比羅石棺	㉑ 庚甲塚古墳（古墳）	㉚ 東上野遺跡
④ 高見古墳（古墳）	⑬ 栗古墳（古墳）	㉒ 岩場石棺（古墳）	㉛ 久原遺跡（弥生・包蔵地）
⑤ 築山古墳（古墳）	⑭ 森古墳（古墳）	㉓ 千人塚古墳（古墳）	㉜ 松崎銅戈出土地
⑥ 寺畑遺跡	⑮ 八反古墳（古墳）	㉔ 荒金古墳（古墳）	㉝ 八尾遺跡（弥生・包蔵地）
⑦ 猫塚古墳（古墳）	⑯ 坊主山1号墳（古墳）	㉕ 上穴遺跡（弥生・包蔵地）	㉞ 久ヶ迫遺跡（弥生・包蔵地）
⑧ 大ノ下古墳（古墳）	⑰ 坊主山2号墳（古墳）	㉖ 東遺跡（弥生・包蔵地）	
⑨ 猪ノ谷古墳3号墳（古墳）	⑱ 八丸遺跡（弥生・包蔵地）	㉗ 細遺跡（弥生・包蔵地）	

第 1 図　寺畑遺跡周辺遺跡分布図

古墳時代になると、神崎周辺は重要な遺跡が集中する。猫塚古墳は築山古墳の西北約１キロの子猫川の右岸、別府湾を見おろす低丘陵に存在したという古墳で、後藤碩田の尚古延寿によると 主体部は箱式石棺と言われており、 １９６７年の再調査によって、二体分の頭蓋骨、鏡片１、土製玉１、刀子１、鉄剣２以上、鉄矛１の副葬品が確認された。４世紀代の前期古墳である。前期古墳としては他に、佐賀関町馬場に所在する馬場古墳が知られている。学術調査は行われておらず、実態は不明であるが、全長６０ｍ、後円部径３０ｍ程の前方後円墳で、後円部より２ｍ程低い狭長な前方部等の墳丘からみて古式古墳に比定されている。

これらに後続する古墳として、築山古墳がある。築山古墳は神崎部落の南の丘陵に築かれた前方後円墳で、古墳の全長は９０ｍ、後円部径は４０ｍ。前方部は後円部より２～３ｍほど低い。後円部に２基の主体部があり、南棺から人骨３体、捩文鏡１、環頭太刀１、芋貝製釧１、小玉類約１８０、鉄鏃 約９０、鉄鎌２等が出土している。北棺からは熟年の女性人骨１体、碧玉製管玉、芋貝製貝釧１、二枚貝製貝釧１０が発見されている。近年墳丘から円筒埴輪の破片が発見されており、５世紀前半代の当地域における盟主的古墳である。中ノ原古墳は径１２ｍの円墳で北に開口する単室の横穴式石室を主体部に持つ。須恵器坏身、土師器碗、鉄鏃、刀子等が出土している。６世紀後半の時期に比定できる。

参考文献

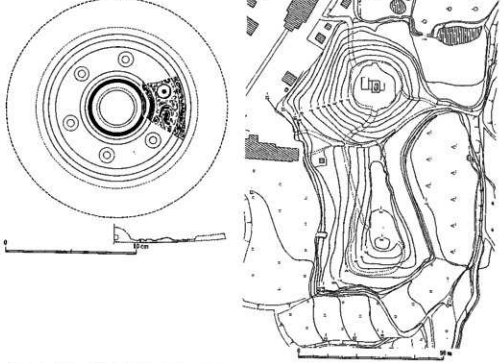
① 梅原末治 「北海部郡に於ける二三の古墳」（『歴史と地理』12巻3号 大正12年）

② 十時英司 「神崎村築山古墳」（『大分県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第11輯、1933）

③ 賀川光夫 「大分県浜遺跡」（『日本農耕文化の生成』、1961）

④ 小田富士雄他 「中ノ原 馬場古墳緊急発掘調査」（大分県文化財調査報告 第15輯、1968）

⑤ 真野和夫・村上久和他 『浜遺跡』（大分県文化財発掘調査報告書 48輯、1980）



第 2 図 猫塚古墳出土鏡（左）、築山古墳（右）（参考文献④から転載）

Ⅲ　発掘調査の概要

発掘地は、神崎部落の南に接した丘陵の裾部に位置し、調査区の南西８０ｍには国指定史跡築山古墳がある。かって神崎駅から佐賀関町を結んでいた軽便鉄道の廃線にそって国道１９７号のバイパス工事が予定されており、重要遺跡の周辺ということで当該地の試掘調査が行われた。柱穴状遺構と小土器片が検出されたおよそ２００㎡を本調査することになった。

調査区は南北５ｍ、東西３０ｍと、極めて狭小である。調査時点では平坦な畑地跡であったが、かって、作業小屋を含む家屋があったということである。

調査区の基本土層は以下のとおりである。

１層：褐色の表土層（およそ１０cm）

２層：茶褐色の耕作土層（１０～２０cm）

３層：黒褐色有機質土層（数cm）

４層：黄色粘質土の地山層

第１、２層を除去すると調査区全面で、柱穴状のピットが検出される。調査区南半分においては、不定形の細い溝状遺構と、南壁に接して不整楕円形ピット状遺構が検出されている。

柱穴状ピット遺構（図　３）

柱穴状ピットは大小有り、基本的に平面円形である。大はおおむね、径２０～３０cm、小は１０～２０cm。確認できるものは３層から掘り込まれており、同層の土が充填している。深さは検出面からおよそ１０cm～２０cmで、底部に拳から小児の人頭大の大きさの自然石が入っているものが2、３あるが、他に本ピットに伴う遺物は皆無であった。

第　３　図調査位置図

調査区全景

溝状遺構

調査区南半分に、南西隅から北東に延びる細く浅い溝状遺構が検出された。途中で二股に分岐する。検出面での最大幅およそ４０㎝、最小幅１３㎝で、全体の形状は蛇行した毛根状を呈す。本遺構も３層の黒褐色土が詰まっており、遺物は皆無である。

不整楕円形ピット遺構

調査区中央の南壁面にかかって検出された。全体の平面形は、長軸１３０㎝、短軸（推定）８０㎝の不整楕円形状プランになるものと判断する。内側に向かってすり鉢状に窪み、大小の岩礫が投げ込まれた状態で出土した。上部の礫塊を取り除くと、検出面から５０㎝下で水がわく。時期を特定できる遺物は出土しなかった。

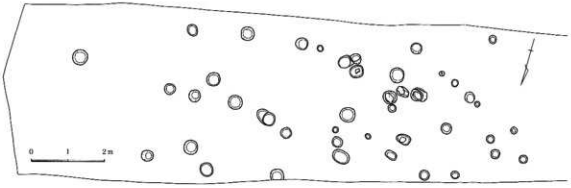
その他の遺構

調査地区西端で、幅の狭いピットを検出した。長さ１６５cm、幅３０cm。底面はほぼ平担で、深さは検出面から２５cm～３０cmを測る。埋土は第３土層で、遺物は検出されなかった。落とし穴等の遺構とは考えられず、その性格は不明である。

Ⅳ まとめ

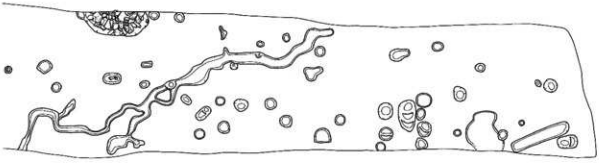
寺畑遺跡において検出された遺構は総て第３土層から掘りこまれ、その内部に充填した土質も同層のものである。各遺構に伴う土器も殆どなかった。この第３層の有機物で汚れた黒褐色土に少数ながら含まれている土器片は土師質の細片であり、時期を特定できるものは皆無であった。柱穴状ピット遺構も意味のある配置を示さず、他の遺構も同様である。付近の住民からの聞き取りによれば、本調査区周辺には、瓦製作等に使われていたらしい作業小屋等が存在していたということであり、そうしたものに関連した遺構である可能性が高い。

なお、当調査区に隣接する築山古墳は、北海部地域を代表する前方後円墳であり、集落などを含めその周辺に同時期の遺構が存在する可能性は高い。今回の調査では当該期の遺構を検出することができなかったが、今後とも十分な注意を払う必要がある。



第 4 図 寺畑遺跡 遺構実測図

不整楕円形ピット



柱穴状ピット近景

大分県文化財調査報告書　第159輯
国道197号特殊改良第一種工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

寺　畑　遺　跡

平成15年3月31日　発　行

編集発行者　大分県教育庁文化課
〒870-8503　大分市府内町3-10-1
TEL　(097) 536-1111 (内5501)
印　刷　所　丸徳印刷株式会社